

令和6年度長官所長会同・議事概要  
(6月19日、20日実施)

1 6月19日、20日の両日にわたり、最高裁判所において、全会員が参集する形で、高等裁判所長官、地方裁判所長及び家庭裁判所長会同が開催された。

本年の会同においても、昨年と同様、裁判所の紛争解決機能を全体として高めていくための司法行政上の方策について、協議を行った。これまで、各事件分野において、裁判手続のデジタル化を見据え、また、裁判官の置かれた環境や働き方に関する意識の変化を踏まえ、裁判官全体が、事件処理に過度の負担を感じることなく最も効果的にその能力を発揮し、充実した司法サービスを提供するための種々の取組が進められてきたところ、効果や隘路も含めた取組の現状、今後の課題について意見交換が行われた。

訴訟手続のデジタル化が先行する民事訴訟の分野においては、デジタル化を契機に核心を捉えた審理判断を目指すべきことが重要であるとの認識は概ね共有されており、これを実践に移し、審理期間の短縮化などの効果を感じている者もいる一方で、繁忙感等のために実践はこれからであり、審理運営改善による具体的な効果を実感できていない者も少なくないとの意見もあった。より多くの者が審理運営改善に取り組みやすくするようにするためには、これまでの経験にかかわらず誰もが負担なく実践できる環境を整えることや、可能な事件から実践すればよいとの認識を共有することが重要であるとの意見も多数あった。

家事分野においても、民事訴訟分野と同様、審理運営改善の必要性について概ね共通認識が形成されているが、その実践の状況については一様でないとの意見が多数あった。家事分野において審理運営改善の実践を進めていくに当たっては、裁判官が多種多様な事件を担当していることや、他職種との連携・調整の必要性が高いことを考慮する必要があるとの指摘があった。家事分野においては、裁判

官が多種多様な事件を負担感なく担当できるように審理運営の工夫や知見の集積・承継が進められており、効果的なものとして引き続き進めていくことが重要であるとの指摘がされ、また、より多くの者が審理運営改善に取り組みやすくするためには、事件処理以外の負担の更なる軽減を図るなどの工夫が必要であるとの意見もあった。

刑事分野においては、裁判員裁判を契機として、法曹三者が協働し、証拠の厳選などの審理の合理化などの審理運営改善の意識が醸成され、実践されてきた反面、公判前整理手続等の長期化などの課題を解決するために、これまでにない新たな視点から検討する必要があるとの意見もあった。

また、これまで部の機能の活性化の取組が重ねられてきたところ、審理運営改善や事件処理に対する負担感の軽減を実践するに当たって、部総括裁判官や家庭裁判所の上席裁判官によるきめ細かいフォローが不可欠である、所長は、部総括裁判官等への支援もしながら、各裁判官が主体的、自主的に、かつ失敗を恐れずに挑戦できる環境作りに努める必要がある、分野を超えた議論を促すために、より一層積極的な役割を果たしていくべきであるなどといった意見が出された。控訴審裁判所に対しては、第一審裁判所との意思疎通を円滑に図るなど、審理運営改善の実践を後押しして欲しいとの意見もあった。さらに、最高裁や司法研修所も、審理運営改善や知見の集積・承継を後押しするような研修等や情報共有を積極的に進めてほしいといった意見も出された。

## 2 事務的協議

裁判所が継続的に質の高い司法サービスを提供していくためには、裁判所の将来を担う世代の裁判官や職員の意見を活用することにより、従来の価値観に縛られない視点で組織の在り方を見直すことの重要性を確認した上で、この一年間の取組のうち、上記意見を活用した事務の合理化、効率化が裁判官や職員の負担感を軽減する効果につながっているかを中心に意見交換が行われた。将来を担う世代の意見を活用するためには、これらの者から意見を聞く場面を改まって設ける

ことが有用であるといった意見があった一方で、日々の執務においても意見を述べやすい環境の整備や工夫が必要であるとの意見が出された。また、これらの者が取組の効果を実感できているかは必ずしも一様ではないが、これらの者が効果を実感し、更に積極的に意見を述べようとする好循環を生み出すために、意見の採否にかかわらず丁寧にフィードバックを行うなどし、小さなことでも成功体験を積み上げられるようにしていく必要があるとの指摘も多数あった。もとより、世代を問わず裁判官や職員による多様な意見を取り入れることが重要であるところ、所長においては、その中でも将来を担う世代の裁判官・職員の意見を適切に汲み取り、その意見をこれまで以上に活用していくよう、一層の工夫や環境整備が必要であり、上級庁としても、このような所長の取組を支援していく必要があるとの認識が共有された。